様式④

教員活動状況報告書

提出日：令和　6　年　3　月　1　日
所　属：　獣医学部　動物応用科学科
氏　名：　加瀬　ちひろ　職位：　講師
役　職：

Ⅰ　ティーチング・ポートフォリオ

１．教育の責任（教育活動の範囲）

応用動物行動学を主として、動物応用科学分野での実践的ジェネラリストに必要な基礎知識と技能、思考力、分析力、表現力を講義・ゼミナール・実習に加え卒業研究を通じて学生が習得できるようプログラムを提供している。

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
動物応用科学概論（1 コマ分）	動物応用科学科	必修	1 年次	169
基礎ゼミ	動物応用科学科	必修	1 年次	179
応用動物行動学	動物応用科学科	必修	2 年次	140
動物福祉論（分担）	動物応用科学科	必修	2 年次	135
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3 年次	8
動物行動管理学実習（分担）	動物応用科学科	選択	3 年次	84
動物環境行動学	動物応用科学科	選択	3 年次	74
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4 年次	8
卒業論文	動物応用科学科	必修	4 年次	8

２．教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

人と動物の共生の実現に向けて自ら考え・動ける人材の育成。また、自己肯定感を持ち、何事にも前向きに取り組めるような環境作りをする。

自ら考え・動くことのできる人材を育成するために、理解の促進と学びの定着を図り、あらゆる学びの場面で主体性を持たせるようにする。また、様々な立場からの意見に触れることで多角的視点を持つことを習慣づけ、問題解決力を身につけられるよう考える機会と時間、試行錯誤できる環境を与える。自ら考え・動くためには、自己肯定感を持つことや何事にも前向きに取り組む姿勢も必要である。これらを養うために、特にゼミナールや研究室活動を通じて、コミュニティ内での信頼感・共感・一体感・ポジティブな情動を持てる雰囲気の醸成に取り組む。また、ゼミナールや研究室活動を通じて小さな成功体験を大学時代に多く経験できるような仕組み作りをする。

３．教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

講義や実習の資料は見易さ・理解し易さを重視し、学びの定着を図るため、学生自身のこれまでの経験や興味、共感できる内容と関連させた話題提供を心がけている。また、実習に関しては事前に当日の手順を確認できるような説明動画を LMS にアップし、各自確認

してから実習に参加させることで、実習の限られた時間を有効に使えるようにしている。学生からの質問にはすぐに答えるようにし、講義やゼミでは学生個人の意見もその場で聞き取るようにすることで、学びの主体性を意識づけている。

アクティブラーニングについての取組

大人数を対象とした講義では、オンデマンド式に加えて毎回の理解度確認のための小テストを実施することで、学生の主体的な学びを誘導できると考えている。また、今年の動物福祉論では、アプリを利用して授業中に匿名性でアンケートを実施し、1 つのテーマについてどのような意見があるかを即時的に示すことで、学生たちの主体的参加を誘導できた。少人数を対象としたゼミナールでは、すべての学生から複数回意見を聴取したり、短時間の学生によるプレゼンテーションの機会を設けることで、考える・伝える・他者の考えを受け取る、の一連のやりとりの回数を増やすよう心がけている。また、Google Meet のブレイクアウトセッションの機能を使って、4〜5 名でのディスカッションをする時間も取り入れ、ディスカッションした内容を全体に発表する機会も講義に取り入れるようにしている。

ICT の教育への活用

LMS を利用して講義後に毎回、理解度を確認するための小テストを実施している。また、実習の手順は事前に動画を視聴させることで、実際の流れを視覚的に理解できるようにしている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A〜C）

B：実習の最後に課題として出しているレポートを見ると、十分にこちらの意図を理解できていない学生も見受けられる。実習を単なる作業の時間にしないために、グループでディスカッションさせる時間を多く設けたが、それでも十分な理解に至るにはステップが不十分だったと感じた。今年度は実習参加者が多く、十分なフォローができなかった可能性があるため、次年度は参加人数に応じてフォローを調整する。

②学生の理解度の把握（A〜C）

B：講義に関しては毎回の確認テストで十分評価できているが、実習はまだ十分とは言えない。実習レポートについては、事前に結果をグループディスカッションし考察する時間を設け、考察のポイントを明確に示したため、適切にレポートをまとめられた学生が 8 割以上であった。しかし、細かい点では誤解も見られたため、一度プレ提出をしてもらい、大まかなコメントを入れてフィードバックする。学生にはフィードバックしたものを踏まえて最終的なレポートを作成してもらうことで、理解を促進させる。

③学生の自学自習を促すための工夫（A〜C）

C：資料を事前にアップしたり、事前に調べてくる項目を提示したりするが、学生によって取り組みにばらつきがある。自学自習を促進させるためのポイントを FD 研修などで学びたい。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A〜C）

A：メールや Google Meet、対面式等により全ての質問に対して対応できている。

⑤双方向授業への工夫（A～C）
B：人数の多い講義でも個人インタビューで意見を聞いたり、その場でアンケートを取り結果を示しながら話を進めるなどの工夫を取り入れている。昨年度よりは、今年の方が学生間の温度差を小さくできたが、今後もこの差を縮める工夫をする。具体的には、参加学生に適宜コメントをもらい、それに対するコメント返しをすることで、学生同士の意見共有の機会にする。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）

5.学生授業評価（分量の目安：4 ～7 行（160 字～280 字））
①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。
過去の授業評価については特に改善点の指摘はなかった。スライドの見やすさや、小グループでの意見交換などについては良かったという評価を受けたため、引き続き実施してゆく。

② ①の結果はどうでしたか。
2023 年度の授業評価結果はこれから公表されるため、今年度についてはまだ分からないが、動物福祉論では個別に授業アンケートを実施し、授業内での匿名性のアンケート（Sugukiku、Live!アンケート）は即時的に学生たちの意見が見れることから好評であることが分かった。来年度は他の講義でも、このアプリを活用して学生の主体的参加を促進したい。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。
アンケート結果を真摯に受け止め、批判のあった部分については改善する。

6.学生の学修成果（分量の目安：4 ～7 行（160 字～280 字））
①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。
講義の冒頭で前回の内容の振り返りを行っている。また、講義の最終回には、事前に学生にもう一度説明をして欲しい内容について意見を聞いて、復習を行っている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価
研究室ユニット 4 年生と大学院生を対象に、週 1 回の研究進捗報告会を行っている。進捗報告会では全員が毎回口頭で報告や相談を行うことで、学生自身が自分の状況を客観的に把握する機会を設けることができた。動物園等の学外施設で実施した卒業研究については、卒論を共有しており、研究成果を動物管理等へ反映いただいたいる。単年度の予定で実施を始めた研究についても、継続的な共同研究をお願いされるケースが増えてきており、調査に取り組む学生の姿勢や成果について好評価をいただいている。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）
ティーチング・ポートフォリオのブラッシュアップ研修に参加し、改めて自分の教育理念や教育における工夫について見直しができた。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

動物福祉論以外の講義でも、Sugukiku や Live!アンケートなどの即時性の高いアンケート調査・フィードバック機能を用いることで学生の主体的参加を促進する。実習の課題レポートについて、こちらの意図に沿った内容を書ける学生を全体の 90%以上に高めることを目指す。専門ゼミについては、卒業研究にスムーズに接続させるためのプログラムを再考する。卒業研究については、更に学生に考える機会を与えるための仕組み作りを実践する。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

・シラバス
・配布資料
・小テスト
・授業動画
・授業評価データ
・卒業論文

参考
※　ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ　スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会　編）から引用）

（自ら作成するもの）
1. 授業に関するもの
   シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）
2. 教育改善に関するもの
   （教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）
1. 学生から
   授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント
2. 同僚から
   授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績
3. 大学／学会等から
   教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）
　授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡